Global Compact
Network Japan

平成 28 年 11 月 9 日

持続可能な開発目標(SDGs)推進本部事務局御中

(社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事
国連グローバル・コンパクト・ボードメンバー
有馬利男

パブコメ後の SDGs 実施指針案に関する意見

第 2 回 SDGs 推進円卓会議にむけ、パブコメ後の SDGs 実施指針本文案をお送りいただき、拝見致しました。前回、GCNJ(グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン)からインプットした意見・期待の 4 項目がカバーされた内容となっており、まずはお礼を申し上げます。

今回お送りいただいた案を、GCNJ の関係者で検討した結果、考慮すべき追加要素があると考え、以下重要なポイントにつきインプット致します。貴 SDGs 実施指針案作成の参考としていただければ幸いです。

[SDGs 実施指針本文案に関する GCNJ からのコメント]

1、全体観として

- 多くの省庁やステークホルダーズが横串連携を取りながら課題解決に取り組むためには、全てのアクターがビジョンを共有しなければならない。その意味では、オーナーシップを感じるビジョンにすること。内容において「持続可能で強靭、そして誰一人取り残さない」と言う世界共有のビジョンに加えて、日本独自のビジョン、例えば、「幸福」「安全・安定」「循環型社会」などを加えることと、あわせて、ビジョン確立のプロセスをオープンなものにすることである。
- パリ協定の批准への遅れは、国際的なプレゼンスの面で課題を残したと言える。日本としての積極的な貢献やイニシアチブなど、日本が率先して SDGs の推進に寄与する意志を明確に表明し、具体的に実践することが重要である。

2、「ステークホルダーとの連携」について

８つのテーマごとに各省庁と様々なセクターを集めた仕組みを構築すること。特定の省庁にしばられないオープンな協働の場を通じたパートナーシップを促進すること。優先順位の高いテーマに関しては、国連統計局のインジケーターと紐付けた、マルチステークホルダーによるステアリングチームを置くべきである。

3、「広報・啓発」(p.8)に必要な要素

国内の認知度向上や具体的な実行につながる啓蒙・普及をすること。国際会議の機会を活用して国際的なルール形成においてもリーダーシップを発揮すること。

以上